

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500639		
法人名	特定非営利活動法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15-5		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370500639&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成22年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち職員は、言動を全て受容しそこから発信されている身体的、心理的要求に応えられるよう感性を磨き技術を習得して住み良い場をつくることに専念する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木材をふんだんに使い、引き戸やすりガラスが温かい懐かしい感じのするホームとなっている。毎週金曜日に職員の送迎で高齢者の方々がボランティア訪問していることで、利用者・高齢者の方々に楽しい交流が行われている。外出する機会の少なくなった高齢者の皆様の憩いの場の提供により、地域交流・地域貢献が行われていた。また、通院時には利用者個々にノートを用意し、医療との連携が図れるよう日頃の状態を記録して医師・ご家族・ホームで連絡が密にとられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を読み上げて確認し、理念を具体的に実行するために毎朝のミーティング毎週月曜日の確認、毎週金曜日の勉強会をもちのり頃への介護に役立っている。	理念の見直しを行っている。また、常に日常生活の中で理念の実行ができるよう勉強会をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎週金曜日に地域の高齢者10人程のボランティアが来所し、1日共に過ごす。 ・近くの保育所の運動会への参加、保育所の児童によるボランティア活動などがある。	高齢者10名位のボランティアが職員の送迎により毎週金曜日に来所している。高齢者の方々から「お世話になっています。」とお礼の言葉が聞かれる。利用者の皆さん・ボランティアの方々も共に楽しまれている様子が感じられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方々に利用できる15帖程の和室がある(台所つき) ・地域の認知症の方も含めたグループを迎え入れて共に楽しむ時間を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・グループホームの年間計画を毎年見直す会議を持ってそこでの話し合い、意見を取り入れて運営している。 ・10月29日苦情解決の研修会に参加研鑽を積んだ。	2か月に一度運営推進会議を行っている。デイサービスなどの事業を展開してほしい等の要望が上がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・苦情の窓口を設け、市の窓口と連携するような仕組みを作っている。又、第三者委員会に市の包括センター職員が加わって協議している。	花巻市の中央包括支援センターと連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受講し、又、その資料で毎週金曜日の勉強会で理解し、取り組んでいる。10月29日盛岡での苦情解決研修会を受講し、身体拘束のない実践を学んだ。	日中は統合失調症の利用者がおられるため、A棟は利用者の安全を考慮し、施錠している時間が長くなっているため、今後、身体拘束について勉強会を行うなど対応を検討していきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受講し、関係資料を読み利用者の個人記録などから常に見逃さないよう努めている。入浴の際の身体の観察(特に皮膚など)不審な点は記録し、原因の究明に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や関係資料などを活用し、ミーティング、勉強会などで学ぶ機会を持ち有効に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、利用者、家族に契約書に沿って説明し、理解、納得、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、運営規定を示して、説明し理解、納得を図っている。職員には採用時に、外部には運営推進委員会などで説明している。	利用料金を毎月届けていただくことで、意向の確認を行うよい機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日と金曜日にミーティング、勉強会で意見、提案を聞いている。毎日の業務の中でも聞く機会を常に設け反映させている。	職員からの研修の要望や提言を月曜日・金曜日のミーティングや勉強会で確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態が良くなければ良い介護はできないので、全ての面で配慮しながら仕事に従事している。 ・就業規則を設け労働基準局監修の労働時間の管理、全国の給与水準より低くならないような設定をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・OJTを取り入れ働きながらのトレーニングを実行している。 ・研修できる機会を逃さず研修会に参加している。 ・学習委員会を組織し自主的学習にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修会などで、代表者も職員も交流を持ち情報の交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。 ・10月25日に交換研修会が行われ相互交流研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時に家族、本人から不安、要望を聞き、困っていることなども話してもらい、信頼される関係づくりの体制を整えている。 ・入居当時は家族の訪問を大いに歓迎している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族とよく話し合える時間を設けて良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントから本人の必要としている支援を見出し、対応できるようサービスの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事作り、誕生会、野菜づくり、小物作りなど共にできることを一緒に楽しみ関係を深めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画」を3カ月に1度見直しのため家族に送付、家族からのコメントなどを参考にして共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は365日24時間対応とし、電話があれば本人との会話ができるようにしている。外食、外出の際、馴染みの場所を確保している。	毎週水曜日におやつを買いに出かけている。駅やショッピングセンターに出かけたり、食事会や喫茶店に出かける機会を多く持つよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合える利用者は、外出、活動の場などで身近に位置するよう支援している。そのことによって支え合える仲間の意識が生まれてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者の入居者を訪ねて様子を見るなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時に本人、家族より希望をきいている ・常に本人の意向についての把握に努めている。その結果をケアプランに移行し実行している。	ご本人・ご家族・職員共に意見を聞きながら、プランに反映できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時あるいは入居してから日々生活の中で確認している(家事、趣味、娯楽等)ミーティングに職員に伝えている。 ・生活歴は特に大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日中、夜間の状態等、業務日誌、個別日誌、申し送りノートに仕事前に目を通す ・仕事前に勤務者3人でミーティングし把握の共有に努め、対応することになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1/Wのモニタリング、アセスメントを職員間で行っている。また、家族の面会時、本人の様子を伝え、希望を聞いている。	毎日、毎週話し合いを持ち、状況を把握し、共有している。行事や面会時・利用料の支払い時などの機会をとらえ、ご意見やご要望の確認を行っており、来所時に介護計画に同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日の業務日誌で記録、理解し職員間でそれを共有し実行している。改めたほうが良いことはすぐに話し合いで見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所のサービスは受けていないが、日々生活の中で要望に応じて対応している。ドライブ、外食、喫茶に行くなどしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、賢治記念館、新花巻駅、童話村、博物館、保育園などがあり、本人に合った利用の仕方を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・できるかぎり家族の協力の下にかかりつけの病院を受診している。やむを得ない時のみ職員が同行している。 ・緊急時には協力病院を利用している(家族了承の下に) 	基本的には家族対応をお願いしているが、緊急時に職員が対応することもある。また、家族だけでは通院が大変であれば対応している。個々に状況を記した連絡ノートを持っていき、医師からもコメントが返ってくることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーは看護師でもあるので観察のポイント等勉強会を通じて学んでいる。 ・普段の健康を観察し記録し管理している。(VS,W、耳、便) 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院までの状態の記録を病院に提示している。 ・退院にあたっては、医師からのこれからの生活の注意を聞きこれからの介護に役立てている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して来ている時点で家族に説明し今後の確認をしている。また、終末期については、入居時に説明した後、状態に合わせ意志の確認を家族にした上で協力病院と連携をとっている。	看取りの指針があり、実際にターミナルケアの実践も行われている。家族と何度も話し合いを持ち、夜間診療等の対応できる病院との連携も図り、職員の研修が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての学習会を開き何度も研鑽を積んでいる。対応の仕方、連絡方法救急車を呼ぶなどのマニュアルができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自衛消防訓練を利用者を含め、全職員で行う。管理権限者、防火管理者、消防士を交え訓練、実施指導を行う。又、防災グッズや食料の補給、点検を行う。	年2回消防署からの協力を得て、避難訓練が行われている。また、ご近所の婦人消防協力隊からの協力もお願いしている。	ご近所の方々の協力を要請し、協力していただける方々の名簿や実際に協力していただきたいことを、明確にすることで、より安心できる体制ができるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、年長者として敬い、それを態度や言葉かけに反映させプライバシーに配慮するよう常に心がけている。	常に年長者として敬う気持ちを心がけている。毎週月曜日には施設長から、プライバシーや尊厳について話しを聞く機会を持たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の見守り支援の中から本人の思い、希望を察知し、その情報を職員間で共有している。穏やかな雰囲気には満ちているので自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にするために個々に合った支援について話し合い、理解、認識を深めて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は定期的に行い、外出、季節や気温に適したおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意の分野で調理に参加できるよう、畑の収穫から、野菜のきざみ、味付け、おやつ作り、配膳、後片付け等、各人の好みや力に合わせて作業を行っている。主食も一律にせず米飯、粥、麺、パンと柔軟に対応している。	栄養士によりカロリー計算が行われていた。また利用者の嚥下能力に応じて、ソフト食(マッシュ)で対応されていた。行事食、郷土食を取り入れており、野菜はホームの畑で作った物、近所からの頂き物を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にするため、一人一人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態により、とろみをつけたりしている。又、月毎の体重変化を見逃さず、食事や間食の量、献立の中身を個別に変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。 ・自分でできる人は声掛けで行っている。介助を要する人には歯や舌の状態を見ながら介助を行い、記録している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんげ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導や、サインを見逃さないように排泄の記録を読み援助している。	個々の状態を観察し、適時トイレ誘導が行われている。リハビリパンツの利用者も少なく、また、自宅にいた時より改善できている利用者もみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会をしている。又、水分補給、運動、食事の工夫をしている。排便の記録を毎日行い必要時、下剤、摘便している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人一人の希望を聞いている(家族)脱衣所との温度差を最小限にし体の変化に注意している。 ・プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	ストーブで浴室と脱衣所の室温差が無いよう注意している。入浴は週3回を基本としているが、希望があれば随時入浴の対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定をはかり、良眠できる様に援助している。散歩、歌、体操等		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を行い、一回毎に渡し、内服を確認している。一人一人が飲んでいる薬の効果、副作用、用量等、一覧にし貼りだしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何をしたいのか、できるのか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。(職員一人一人のエピソードを記録し理解している。)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、畑、外食等、状態にあわせ数回にわたり外出している。花巻祭りには、席を予約してゆっくり楽しめるようにしている。	水曜日のおやつを買いに行く日、白鳥を見に行く、新花巻駅の近くまで散歩に行く、等日常的に散歩に出かける機会を大切にしている。また、家族対応で墓参りや、食事に出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんげ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、外食の際に現金を手渡して(1000円程度)買い物や支払いを実感して満足感を味わう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物があった場合は、直接家族と話をしてもらおう。利用者が描いた絵手紙を家族に出し、返事をもらって絆を深めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音、光、色・広さ、温度に気を使いテーブルの配置を考えて、大人数で、少人数で楽に過ごせるよう工夫している。	太い柱等、木の温かみを活かした作りで、すりガラスの引き戸が、懐かしい雰囲気と、使いやすさを兼ね備えていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方などを工夫して、独りでも友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものなどは、入居当初から、或いは、必要になった時に持ち込んで居心地の良い居室となっている。	炬燵や鏡台・ご位牌・ベッドを持ち込まれている利用者もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所などわかりやすい表示を取り入れ、手摺、つかまり棒など工夫して設置し生活への配慮がされている。		